

「日本語表現法」自己PR コンテスト結果からみる内容の考察 ～第四回の結果より～

高木香与呼

1. はじめに

今年度で開設10年目を迎えた「日本語表現法Ⅰ」では、2014年度より「自己PR コンテスト」を開催している。2017年度は、第4回自己PR コンテストを春学期定期試験の一つとして期末に本校で開催した。

前稿「「日本語表現法」自己PR コンテスト結果からみる話し方の評定について」(2016)では、発表時のどのような要素が評価に影響を与えるかについて論じた。

今回のコンテストでは、教育の成果か、話し方においては参加者の80%以上が、前回よりレベルが高かった。そこで、話し方が評定に与える要素を満たしたのち、どんな内容が評定に関係するのかに焦点を当てた。本稿では、発表の内容の評定に与える要素について取り上げる。

2. 自己PR コンテスト審査基準

本校の「日本語表現法Ⅰ」は、読む・書く・話す・聞くの基礎的な日本語能力を、実用的に運用できるようにすることを目的としている。特に春学期の日本語表現法Ⅰでは、具体的に物事をわかりやすく説明できるようにすることと、パブリックスピーキングの要点を習得することに重点を置いている。その総仕上げとして、自己PR コンテストを学期末に行なっており、今回で四回目を迎えた。

一年全員が集まり、一組から四組とMSEクラスより各三名ずつ合計十五名、一分程度の自己PRを発表する。教員六名(持ち点各20点、複数人に分配できる、合計120点)と、発表者以外の学生(持ち点各1点、合計150点)の投票により順位を決定する。

学生・教員ともに、審査は審査用紙の項目にそって各発表者を評価する。評価の項目は、

- 1 全体のインパクト(印象)について
- 2 内容について
- 3 発声、発音について
- 4 表現力、態度について
- 5 説得力について

以上の五項目である。

1 は内容も含んでしまうことも考えられるが、3、4 は内容以外の要素である。

3. 発表学生の内容

各学生の発表内容を以下にまとめる。

番号は発表順。挨拶→名前→題→本文の順に発表する決まりで行われた。

発表者は全員、事前に発表内容を作成し、担当教員のチェックを受けることが義務付けられている。

なお、留学生にはその旨を番号の後に加筆した。留学生は全一五名中、六名が参加した。

2017年自己PR コンテスト発表者原稿

1 ※病欠

2 (留学生)

皆さん こんにちは。親切な人だと私は思います。

貧しい家に生まれた私は、大学を卒業するまでに、英語とインド語を学びました。大学の授業で銀行ヘインターンシップに行きました。仕事ぶりを認められ親友と一緒に銀行に就職しました。

楽しく二年が過ぎようとしていたところにネパールで大地震がおきました。約800人の死者と1万4千人の被災者がでました。その中の一人には、私の同僚がいました。彼の家も倒れてしまったのです。いつも幸せだった友達が悲しくて不幸な人になっているのは見ていられませんでした。それを知ってからは、どうやって友達の家をもう一度作り直せるかばかりを毎日考えていました。

一緒に働いている他の人達にも相談して、何か手伝おうと考えました。銀行の社長にその事を伝えて家を建ててもらおうという事になりました。私達5人は社長に何回も会おうとしましたが、忙しくてなかなか会えませんでした。やっと1カ月後に会った時社長は、それはいい事だ、私もお金を出すし、社員にも協力させると言ってくれました。そのプラス思考を聞いてみんな嬉しかったです。そこで一人だけではなく、銀行で働いている他の地震の被災者も手伝う事になりました。調べたら、会社の中に10人もいる事がわかりました。社員は700人から、義援金として、600万円も集まりました。10人のために、地震に強い家を建てる事ができました。

一人の友達のために何かしようと思いましたが、10人も助ける事ができました。

このことから学んだことは、優しい気持ちで一生けんめいすれば、どんな大きな問題も解決できるということです。

私は、これからもこの親切さと努力で、社会に貢献して行きます。

3

私の得意な教科は地理です。

小学生の時から地図帳やマップを見るのが好きで、家にいるとよく見ていました。それらを見始めるととても集中して、2時間以上見続けていることが大半でした。

また旅行に行くと言った先の観光案内版の地図と長時間にらめっこしていました。そのおかげでいろいろな土地の特徴や名産品などを覚えられました。

ですから、中学高校とこの教科は常にクラスの3位以内でした。また頭の中で道路地図が出来上がっています。

このように好きなことには高い集中力と記憶力を発揮します。

私の将来の夢は、夢のある車を作る事です。

現在自動運転システムなどの装備が付いていたり、電子制御が多くつけられています。さらに価格も上がるので、若い人が車に手が届きにくくなると思います。

ですから、メーカーに入って運転して楽しいリーズナブルな車を作りたいと思っています。

4

私は、チームを引っ張り育てます。

小学校4年生からラグビーをやっていました。

もちろん中学3年の時は、副キャプテンでした。

仕事は練習についてこれない部員がいたら、「お前ならできるだろ」と声をかけてチームについてこれるようにしました。

また、リーダーとして部員やコーチと練習内容や作戦などを話し合い、強いチーム作りをしてきました。

おかげで最後の県大会はベストエイトになりました。また個人でも県の選抜に選ばれました。このチームを引っ張り育てる力を社会でも発揮できるとしています

5 (留学生)

「どんな状況でもみんなと一緒に乗り越えようとする人」です。

つまり人と人の間でこそ力を出せると言うことです。

韓国のある祭りでボランティア活動をしたときの事です。その日、学生ボランティアが60人ほど参加していました。無事にイベントは終わりましたが、責任者は最後に何をするかを確認しないでいなくなっていました。

残された学生たちがどうしていいかわからず困っていました。そこで私は各リーダーと話し事務局とも連絡を取りました。15分後には全員が何をすれば良いのか確認が取れ、時間通り終わりました。

特に自己主張しない私ですが、短い時間でも他のチームの人とのつながりが幅広くありました。だから状況をスムーズに把握して解決することができました。

このように、何か予想外のことがあったとき、人々の力を集めてなんとかやってみようとするのが私です。

もちろん人間関係はいつもうまくはいきませんが、諦めずに取り組むのが私の強みです。そしてこれが社会で役に立つと思っています。

6

私は高校2年生から3年生まで社会福祉について勉強しました。

中でも介護と保育を選択していました。介護では身体精神に障害がある人、老人の人への介助の仕方について勉強しました。

保育では、乳幼児への正しい食事、お風呂の入れ方、睡眠の取らせ方について勉強しました。

そのおかげで地元の駅前に倒れているおじいさんに声をかけ助けることができました。足が不自由でうまく起き上がることもできずにいたのです。

授業で習ったように上体を起こし、おんぶをして、接骨院まで送りました。

すぐ行動ができたのは勉強したからこそです。

この経験から、自分にも人を助ける力、勇気があることがわかりました。これからも困っている人がいたら自ら助けの手を差し伸べたいと思います。

7 (留学生)

真面目な人それが私です。学校を1日も休んだことがありません。予習復習も必ずします。

2年間で日本語はもとより文化や習慣なども勉強しました。特に、敬語の尊敬語と謙譲語をしっかりと勉強して使えるようになったので、今は大好きな日本でコンビニのアルバイト経験があります。アルバイト先でちゃんと敬語を使ってコミュニケーションがうまくできています。

学校では毎日授業がわかるようによく本を読んで理解しています。復習もしています。成績Aプラスをとることが目標です。

日本の会社では会社員には団結して真面目に仕事をします。ですから日本の会社でそれを勉強して、さらに真面目の経験を積みます。将来自分の会社を作りたいと思っています。

8

計画性、これが私の長所です。

高校では複数の業務を担当していたため、1週間や1日のスケジュールを立て優先順位を決めてクラスのことを行っていました。

まず、カレンダーに先生から言われた仕事を書き込みます。それに、翌週のもの確認しながら、

今週できる事は前倒しして、早めに仕上げました。私が強みを最も発揮したのは、先生が急に来週決めるはずのメンバーと、会場の準備を明日までにして欲しいと言った時です。その時、まずその日のうちにメンバーを決めました。次の日には会場セッティングを率先して行いました。開始時間の前にプロジェクターの設置や資料の配布が終わるように準備し、人が揃ったらすぐに始められるようにしました。また参加する先生へのお茶出しも合わせて行って、会議まで気持ちよくお待ちいただけました。結果、会議がスムーズに行き、終わりました。

このように、私は必要な準備は何かを考え、確実に実行に移すことができます。この強みを使って、これからも計画通りがんばり続けます。

9 (留学生)

※原稿未提出

10 (留学生)

決めたことに入り込む集中力と豊かな人生経験が強みです。

私は高校2年から学校へ行きながら日本語を独学で習いました。1年間勉強して JLPT 二級が取れました。しかも、韓国のセンター試験もがんばって全国トップ10%に入ることができました。その結果大学に入って奨学金をいただきました。その後1年生の終わる頃には JLPT 一級が取れました。

そして、大学4年間6つのバイトをしました。工場、ネットカフェ、居酒屋、アプリ制作、マクドナルドなどいろんなバイトをしました。大学3年生には交換留学生に選ばれて1年間鳥取大学で留学できました。

そして、大学を卒業してすぐワーキングホリデーで1年間日本の川センターでバイトしたこともあります。

私は決めたことに入り込める集中力と今までに積み上げた人生経験を生かして日本の自動車業界で働きたいと考えています。

11

※原稿未提出

12

私はチームワークを向上させ、目標を達成できます。

この力を発揮したのは高校での卓球部です。最初は、各選手が県大会で勝てればいいや、全国で活躍したいなど、モチベーションがバラバラの状況でした。

そこで、目標にしたい全国大会でトップの成績を上げて高いモチベーションとチームワークが

ある高校の監督に直接会いました。そして2泊3日の合同合宿をお願いし実現しました。

するとプレイだけでなく、スポーツマンシップに則った健康管理や体のメンテナンス、食事の取り方がみるみる身に付きました。

その結果全員に高い意識ができ勝つべきチームへと成長しました。そして、インターハイ予選では参加をとることができ、さらにダブルスでは全国で3回戦まで勝ち進めることができました。

この経験から自分に自信を持つことができ、社会人になってからも自分に与えられた場所でチームワークを向上させ目標を達成させます

13

私は今飲食店でバイトリーダーとして働いています。そこでの経験で、私は人に指示をすることは自分に責任が問われるということがわかりました。

以前私が勤務しているときに自分の判断で指示をした結果、料理の提供が遅れ、お客さんからのクレームがきたことがあります。人の上に立つことでスタッフを動かすことはできますが、失敗したときの責任はスタッフを動かした自分にあるのです。

そこで私はこの失敗を通じて、今後は、しっかりと人をまとめあげられる人になりたいと思いました。そのために、独断で考えを決めるのではなく、他のスタッフともしっかりと意見を交換してから指示をするのが良いと学びました。

このことによって他の考えも知り、失敗が減ると思います。このことを踏まえ、これからも、リーダーとして人をまとめていける人間になりたいと思っています。

14

私は清掃（そうじ）の大切さがわかる人間です。

私は入学してからの3ヶ月で、この学校の中にあるパシフィックレーシングチームのファクトリーに放課後通っています。行くたびに、「何か手伝う事はありますか」と聞くと、ホイールやバンパー、フェンダーの清掃をよく頼まれます。

はじめは、ただ洗うだけだと思っていました。しかしある時、中里先生に、「ただきれいにすることに意味があるんじゃないかと、傷はないか、などの確認も含まれているんだよ」と言われました。レーシングマシンにとって不具合はできるだけ避けたいものです。その不具合をいち早く見つけるためにも、清掃をする意味とその重要性についてこの言葉から学びました。

その意義を理解した後から、清掃をより一層頑張ることができるようになりました。

15

私の長所は、単調なことに対しても真面目に取り組むことができることです。

アルバイトで社員の方々のやりたがらない資料まとめ、シュレッダー作業などもきっちりとこ

なすことができます。

私の趣味の1つにゲームがあります。一般にはまだ教育に悪いなどのイメージがありますが、私が単調なこともコツコツできるのには、ゲームのおかげもあると思います。普通のRPGでもクリアする爽快感はもちろんありますが、強い敵を倒すために、地道なレベルアップは欠かせません。これは研究やレースの世界ではセッティング合わせなど、様々な仕事にも大切なことだと思います。

新たな技術の開発、ベースでの処理など、大きな目標へ向かって小さな努力を積み上げることが大切です。人生にゲームクリアはありませんが、これからも地道にレベルアップスキルアップを大切にしていきたいと思います。

以上が、提出された発表内容である。

担当教員のチェックは、事前に最低一回。文章と話し方の両方をチェックする。希望者には二回目や三回目のチェックもした。

指導の要点は、最初に短く自分のPRの中身のキャッチフレーズがあり、そのあとにそれを具体例を入れて説明し、最後にまとめとして、得られたことやできることを書くようにという指示。時間は一分程度（400字程度）と決めてあったが、この部分の指導は、実際の就職活動でも、それほど厳しくないため、内容が具体的に表現されていれば拘らないことにしてある。

4. 審査結果集計表から

次に、今回のコンテストの教員審査点集計表を見る（表1）。

受賞した学生の審査点内容を見てみる。2番は、教員点に比べて、圧倒的に学生点が多い。逆に、教員点が16点と高い6番・13番・14番は、それほど学生点を集められていない。特に14番は、入賞すらしていない。そこで、次に、上位者の内容をみてみる。

5. 内容の比較

筆者の考えるパブリックスピーキングに必要な一般的スキルは、「態度」「話速」「発音」「発声」「表情」「内容」である。前稿では、「内容」を確実に伝えるためには、「態度」「話速」「発音」「発声」「表情」を調えることが必須であるということを確認した。このコンテストでは、発表者の80%以上がこの条件を満たしていた。この理由から、今回の順位の違いは、内容の違いによるものと言える。

上位五名と、教員点が高いにもかかわらず入賞していない14番の内容を要約してみる。

2番は、日本でも大きなニュースになった、誰でもが知っているであろうネパールの地震の話題。被災者である親友を救うために動き成果を出した、という内容が学生の心に響いたようだ。

また、1番の学生が欠席したため、トップの発表で、全文が長いにもかかわらず（680字）、暗

表1 教員点集計表

| 自己PRコンテスト教員審査点集計表 | | | | | | | |
|-------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----------|
| 発表者 番号 | 教員A | 教員B | 教員C | 教員D | 教員E | 教員F | 合計 教員点 |
| 1 | | | | | | | |
| ② | | 4 | 4 | | | 5 | 13 |
| 3 | | 4 | | 1 | | | 5 |
| 4 | | | | | | 1 | 1 |
| ⑤ | | | | 2 | 2 | | 4 |
| 6 | | 5 | 3 | 3 | 2 | 3 | 16 |
| ⑦ | | | 3 | | 2 | 3 | 8 |
| ⑧ | | | | | | | |
| ⑨ | | | | | 2 | 1 | 3 |
| ⑩ | 5 | | 2 | 2 | 2 | 3 | 14 |
| 11 | 5 | | 2 | 1 | 2 | 3 | 13 |
| 12 | | | 2 | 3 | 2 | | 7 |
| 13 | 5 | 4 | 2 | 3 | 2 | | 16 |
| 14 | 5 | 3 | 2 | 3 | 2 | 1 | 16 |
| 15 | | | | 2 | 2 | | 4 |

※○囲みの発表番号は、留学生

評価点には影響する。

表2 最終集計表

| 自己PRコンテスト審査最終集計表 | | | | | |
|------------------|------|------------|------------|----|--------|
| クラス | 発表番号 | 点数1 学生点 | 点数2 教員点 | 合計 | 賞 |
| 1 | 1 | | | | |
| 1 | ② | 45 | 13 | 58 | 最優秀賞 ① |
| 1 | 3 | 8 | 5 | 13 | |
| 2 | 4 | 7 | 1 | 8 | |
| 2 | ⑤ | 17 | 4 | 21 | |
| 2 | 6 | 9 | 16 | 25 | 努力賞 ④ |
| 3 | ⑦ | 12 | 8 | 20 | |
| 3 | ⑧ | 2 | 0 | 2 | |
| 3 | ⑨ | 3 | 3 | 6 | |
| 4 | ⑩ | 21 | 14 | 35 | 優秀賞 ② |
| 4 | 11 | 7 | 13 | 20 | |
| 4 | 12 | 14 | 7 | 21 | 努力賞 ⑤ |
| MSE | 13 | 16 | 16 | 32 | 優秀賞 ③ |
| MSE | 14 | 2 | 16 | 18 | |
| MSE | 15 | 2 | 4 | 6 | |

※○囲みの発表番号は、留学生

記していた。さらに、表情やボディランゲージも行った。感動的な内容ではあるが、長い場合ポイントが絞り切れていない。この点が、教員点の低さに影響しているのかもしれない。

6番は、短く、かつ具体的に、これまでのたくさんの学びを日常生活で実行に移した具体例が語られている。福祉という点でも、より教員の共感が得られているのかもしれない。

10番は、少々早口ではあったが、自身の多種多様な社会経験と、学習の、日々の努力による到達度を、具体的かつ端的に語った。これが、学生教員両方の支持を集めたと思われる。

12番は、部活チームの実力向上のためにトップクラスの学校の監督に直談判し、合同合宿を実現し貢献した話。学生・教員ともに点数を集めた。

13番は、バイトリーダーでの経験から、上に立つ者の責任を実感した話。他者への配慮が必要だと感じた事が具体的に語られた。教員・学生ともに共感を集めたようだ。

14番は、身近な先生がよくありそうなアドバイスから、単なるそうじにも意味があることを実感したという内容。教員の共感を集めたが、学生の票は、集められていない。

6. ま と め

教員は総合的に、また、それぞれの審査ポイント5項目を分けて考えるように努める。内容については、構成や文法、単語の選択からわかりやすさや、中身の濃さ（話題の重要性や充実度、社会での役立つ度など）をみる。中身の濃さは、社会人となるためにそなえたいことであるが、実行されにくいことだ。これを満たした発表者は教員点を多く集める。

しかし、学生はそれよりも内容のインパクトに左右されているのではないと思われることが、集計表から読み取れる。また、十五人中一人にしか投票できないということもあるだろう。

学生点が多い発表者は、優等生的なことではなく、社会的倫理的に正しいことももちろんかもしれないが、それよりも自分では実現できそうもない仲間への貢献に反応しているようにみえる。身近にそんな人はおらず、自分にもできないと思っているものだ。そんな内容に投票したと思われる。コンテスト終了後学生に義務付けている感想にも、「自分にはできない」や「素晴らしいこと」という言葉が多く見られた。

ちなみに、「日本語表現法Ⅰ」では、分かりやすい口頭説明文を作る方法として、主に以下の5点を強調している。

基本として、

- ・一文一意。(一つの文章には一つの内容だけにする)
- ・一文を短く。(30文字程度)
- ・具体的(5W1H, 固有名詞, 数字)表現。
- ・漢語を和語にする。
- ・専門用語は初出時に、語の前または直後に説明する。

構成では、

- ・結果→理由（具体的に）の順番にすること。

仕上げとして、

- ・同じ言葉、同じ意味の文をできるだけ削ること

上記の要素が満たされれば、聞いてわかりやすい文になる。今回の自己PRコンテストの発表文は、これらの要素をほぼ満たしている。だからこそ、内容の差が受け手の心のフィルターに届くかどうか、順位の差になったのだろうと考える。

尚、今回の審査教員のうち五名は、第1回から参加している。昨年同様、発表者の多くが皆まじめに取り組んでおり、パブリックスピーキング技術に大きな差がなかったことに加え、内容もそれぞれ充実していたため、審査が大変難しかったとの感想だった。回を重ねるごとに、学生のパブリックスピーキング力が向上していることが実感できたコンテストだった。今後も地道に続けたい。

参 考 文 献

「日本語表現法」自己PRコンテスト結果からみる話し方の評定について～第三回の結果より～ 高木 香与呼
2016

